



# 行政視察報告書

＊期 日 令和 7 年 10 月 28 日(火)～30 日(木)

＊調査地 三重県松阪市

「コミュニティバスについて」

愛知県知多市

「家庭系収集ごみ有料化の導入について」

茨城県古河市議会 総務常任委員会

＊関係資料については、議会事務局に保管してあります。

令和7年12月19日 報告

委員長	古川一美
副委員長	印出慎也
委員	高橋秀彰
委員	佐藤稔
委員	落合康之
委員	青木和夫
委員	鈴木隆
委員	渡邊澄夫

# 松阪市

- 人 口：151,703 人 （R7.10.1 現在）
- 世帯数：66,587 世帯 （R7.10.1 現在）
- 面 積：623.58 k m<sup>2</sup>

松阪市は三重県のほぼ中央に位置し、東は伊勢湾、西は台高山脈と高見山地を境に奈良県に接し、南は多気郡、北は雲出川を隔てて津市に接している。

地形は西部一帯が山岳地帯、中央部は丘陵地で、東部一帯には伊勢平野が広がり、北部は雲出川、南部を櫛田川が流れている。

日本三大和牛の一つで肉の芸術品と呼ばれる「松阪牛」をはじめ、さまざまな食のブランドが松阪市の産業・観光に密接に結びついている。

市域の8割が耕地と山林であり、西側の山間部においては高齢化及び人口減少の進展が顕著になっている。

市街地においては鉄道駅を中心にバスが運行していて、路線バスが運行していないエリアでは、地域が主体的に運行に協力するコミュニティバスが運行している。

## 【調査事項】 コミュニティバスについて

### 1. 地域公共交通ネットワークについて

- ・地域公共交通ネットワーク構築の背景について
- ・鈴の音バスとコミュニティ交通の特色について
- ・利用者数の推移と利用促進に向けた取り組みについて

### 2. 協賛金制度について

- ・導入の経緯について
- ・協賛金の実績について
- ・協賛金募集のために取り組んでいることについて

### 3. 今後の課題と展望について

## 【調査事項】コミュニティバスについて

### 1. 地域公共交通ネットワークについて

#### ・地域公共交通ネットワーク構築の背景について

松阪市の地域公共交通は、鉄道、路線バス、タクシー、コミュニティ交通などで構成されている。近年では、利用者の自動車への依存の高まりや人口減少、少子高齢化、また新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式の普及により地域公共交通を取り巻く環境は一層厳しさを増している。このような状況の中、減少する地域公共交通の利用や移動需要を喚起する重要性が増していることから、「松阪市地域公共交通計画」を策定。この計画に基づき、以下のとおり地域公共交通ネットワークを構築している。

【地域公共交通の分類】

分類	交通手段	運営主体	現在の路線
幹線公共交通	鉄道	J R、近鉄	・J R：紀勢本線 ・近鉄：山田線・大阪線・名古屋線
	路線バス	三重交通	・松阪市内ライン：市内パークタウン線 ・飯南飯高ライン：飯南波瀬線 ・松阪射和ライン：松阪大石線、大杉線、松阪熊野線
	鈴の音バス	松阪市	市街地循環線、幸中央線、三雲松阪線、大口線
準幹線公共交通	鉄道	J R	J R名松線
	路線バス	三重交通	津三雲線
支線公共交通	コミュニティ交通	松阪市	【地域の骨格的な路線】 飯南地区コミュニティバス、飯高波瀬森地区コミュニティバス、鎭野地区コミュニティバス、三雲地区コミュニティバス 【地域内の路線】 黒部・東地区コミュニティバス、機殿・朝見地区コミュニティバス、宇気郷地区コミュニティバス、阿坂小野線、宇気郷線、松尾地区コミュニティ交通
		津市	津市コミュニティバス（一志東・伊勢中川駅ルート）
	お出かけ交通	地域住民	虹が丘町デマンドタクシー
特定輸送		三重交通	市内合同庁舎線、市内三重高校線、飯南松阪高校線
個別輸送（タクシー）		タクシー会社4社	—

「松阪市地域公共交通計画」では、松阪市の公共交通の目指す将来像として

気兼ねなく利用できる地域公共交通をみんなでつくる

としていて、4つの基本方針に基づき取組を進めている。

#### 基本方針① 鉄道、路線バス、タクシー等の公共交通の認知度向上

##### 【具体的な取組】

##### ○バス無料デーの実施

令和4年度から令和6年度に市内の路線バス、市営バスの利用をすべて無料とするキャンペーンを実施。令和7年度は小中学生を対象に夏休み期間中、コミュニティバスの運賃を無料にするキャンペーンを実施。

##### ○イベントとのコラボレーション

市内の謎解き宝探しイベントとコラボレーションを実施。宝探し参加の小中学

生の運賃無料化やお宝スポットをバスのアクセスが良い施設に設定することでバスをアピールした。

## 基本方針② 市営バス（鈴の音バス）の再編

### 【具体的な取組】

#### ○鈴の音バスのルート見直し

鈴の音バス沿線地域の住民と協議のうえでバスルートの見直しを行った。  
該当地域のバス停について、見直し前と比較し約 30%（約 400 人→約 550 人）利用が増えた。

#### ○バスの意見交換会の開催

鈴の音バス沿線地域の住民と意見交換会を開催。  
沿線の住人約 40 人にバスの乗り方講座やバスの要望の聞き取りを行った。

## 基本方針③ 地域の特性や実情に合った交通手段（おでかけ交通）の確保

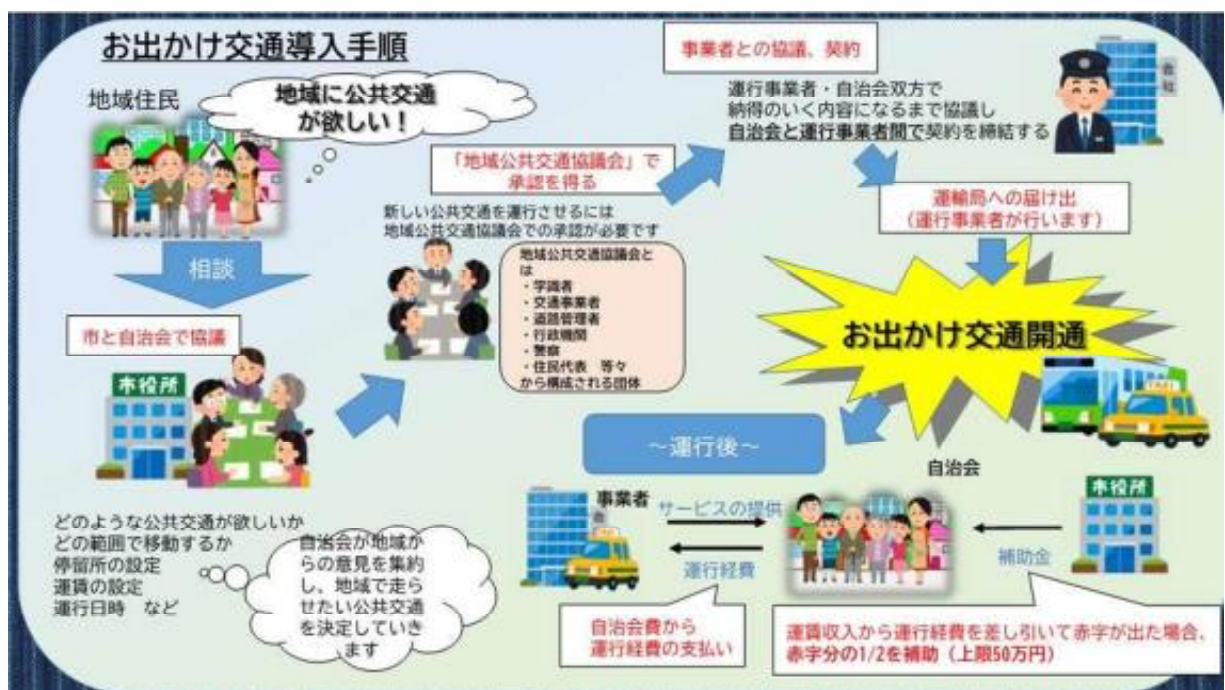
### 【具体的な取組】

#### ○山間部でのデマンド交通の導入

コミュニティバスが運行する山間部において、既存バスではすべての地域をカバーできていない問題を解決するためデマンド方式を採用。

#### ○自治会主体のデマンド交通の導入

地域住民で組織する団体（自治会、住民協議会など）が主体となって運営するコミュニティ交通。地域が自身の地域の課題や設計を行うことで、よりきめ細やかなサービスの確保が可能。





#### 基本方針④ みんなで支える地域公共交通の実現

##### 【具体的な取組】

##### ○転入者向けに路線図を配布

松阪市の転入者約 5,000 人を対象に、転入時のしおりにバスの路線図を配布することでバスの利用促進を図る。

##### ○バスのPR活動

他課開催の特別講演に参加された方へバス啓発冊子を配布し、公共交通の利用をPRした。

#### ・鈴の音バスとコミュニティ交通の特色について





### 【鈴の音バス】

鈴の音バスは幹線公共交通として市街地の活性化のため、バス会社等と調整して、市街地を中心に市が運行している。

スーパーや病院を停留所としているため、買い物や通院での利用が多い。

市街地循環線、幸中央線  
三雲松阪線、大口線  
の4路線で運行。

市内企業から協賛金をいただきながら運行している。

鈴の音バス



### 【コミュニティ交通】

コミュニティ交通については支線公共交通として、市街地から離れた場所に住む市民の移動手段と幹線公共交通への接続を担っている。

#### 〈嬉野おおきんバス〉

地域を運行し、鉄道等の幹線公共交通に接続する。

沿線地域から1世帯年間800円の協賛金をいただきながら運行。

嬉野おおきんバス



#### 〈飯高地区コミュニティ交通かはだ〉

自家用有償運送による公共ライドシェア。約250か所に停留所を設置し、細やかに対応できる体制を整えている。

沿線地域から1世帯年間800円の協賛金をいただきながら運行。

飯高地区コミュニティ交通かはだ



・利用者数の推移と利用促進に向けた取り組みについて

○地域公共交通の年間利用者数

(人)

区分/年度	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
鈴の音バス	109,826	98,982	71,101	74,350	83,908	87,603	95,625
コミュニティ交通	29,006	28,405	21,407	22,737	23,659	25,825	26,909

○利用促進に向けた取り組み

【バス無料デーの実施】

令和4年から6年の3年間でバス無料デーを実施。令和7年は子どもを対象とした利用促進を行った。

【地域主体の交通手段（お出かけ交通）の推進】

局所的な交通空白地をカバーするため地域主体の交通手段（お出かけ交通）の導入を推進する。また、お出かけ交通を支線的に導入することで幹線の公共交通利用の推進につなげていく。

【駅前バスターミナルの整備】

三重交通㈱と共同で駅前バスターミナルへデジタルサイネージを設置することで、観光客や市民にバス案内を分かりやすくし、公共交通の利用促進につなげる。（令和7年度中に設置予定）

2. 協賛金制度について

・導入の経緯について

平成17年に商工会議所と連携して、市街地循環線への協賛金を募集した。現在、幹線公共交通（鈴の音バス）については、企業から協賛金を受付をしていて、車内広告等で協賛者へ還元をしている。  
支線公共交通（コミュニティバス）については、バス沿線の住民から1戸あたり800円の地域協賛を得ている。

・協賛金の実績について

(千円)

	R2	R3	R4	R5	R6
鈴の音バス	8,123	7,448	6,925	6,839	6,719
コミュニティ交通	5,521	6,616	6,602	6,479	5,907



公共交通の維持のため、協賛金の主旨の理解を得ている企業から一定の協賛をいただいているが、広告スペースが不足してきたことや民間バスの広告に比べて割高のところから年々減少傾向にある。

・協賛金募集のために取り組んでいることについて

毎年1度、企業を訪問し、地域公共交通の維持のため協賛金の主旨を理解していただけるように努めている。

また、コミュニティ交通についても地域の公共交通を住民一人一人が作りあげていくという主旨を説明して協賛金に対する理解を促している。

### 3. 今後の課題と展望について

#### 計画の達成状況

計画策定時の現状値（R4年度）水準を維持する最低限達成すべき目標値としての達成目標値と公共交通の将来的な発展を目指す計画目標値（R元年度）を評価指標としている。

#### ○住民一人あたりの地域公共交通年間利用回数（R6年度）

公共交通利用者数	1,175,066 人
住民基本台帳人口	156,711 人
一人あたりの公共交通年間利用回数	7.50 回／人
達成目標【6.99 回】評価	○
計画目標【8.0 回】評価	×

#### ○地域公共交通の年間利用者数（輸送回数）（R6年度）

	利用者数 実績	達成目標評価		計画目標評価	
		目標値	評価	目標値	評価
市内鉄道駅の年間利用者数 （千人／年）	5,240	4,555	○	6,150	×
路線バス年間利用者数 （千人／年）	1,027	959	○	1,136	×
タクシー年間輸送回数 （千回／年）	505	363	○	507	×
鈴の音バス年間利用者数 （千人／年）	96	84	○	99	×
コミュニティ交通年間利用者数 （千人／年）	53	44	○	64	×

- ・利用促進活動やコロナ禍からの回復により、令和４年度水準を目指す「達成目標」は達成している。ただし、コロナ禍前の令和元年度水準を目指す「計画目標」は達成していない。



地域公共交通は依然厳しい状況であることを強く認識したうえで、公共交通の必要性をアピールして積極的に利用促進策を進めていく

また、バス運転手確保策やライドシェア、お出かけ交通の拡充にも積極的に取り組み、地域公共交通の維持に努めていく。

# 知多市

- 人 口：82,752 人 （R7.10.1 現在）
- 世帯数：37,678 世帯 （R7.10.1 現在）
- 面 積：45.90 k m<sup>2</sup>

知多市は知多半島の北西部に位置し、西は伊勢湾に面し約 15 kmの海岸線を有し、北は東海市、東は東浦町および阿久比町、南は常滑市に接しています。地形は平均してなだらかな平坦地だが、市の中部から東部地域にかけて、丘陵地になっています。気候は四季を通じて温暖であり、臨海部工業地帯と住居地域は恵まれた緑により区分されている。

昭和 45 年 9 月に市制を施行し、現在では中部圏の中核である名古屋市の周辺都市として名古屋南部臨海工業地帯に、火力発電、石油精製、都市ガス供給、造船、食料品、および飼料製造の企業が操業している。

知多市の家庭系ごみの排出量は県内自治体の平均を大きく上回り、ごみの減量が進まず、資源回収量についても年々減少していた。また、施設の維持管理に加え、東海市と共同で整備する新しいごみ処理施設の建設費用も必要となるため、ごみ減量に効果があり、ごみ処理費用に対する負担の公平性と財源確保のため、平成 28 年度に「知多市廃棄物の処理及び清掃に関する条例」を改正し、家庭系収集ごみ有料化を導入した。

## 【調査事項】 家庭系収集ごみ有料化の導入について

1. 家庭ごみ有料化に至る経緯と概要について
2. 住民周知の手法と要望、意見について
3. 導入後の効果と検証について
4. 今後の課題について

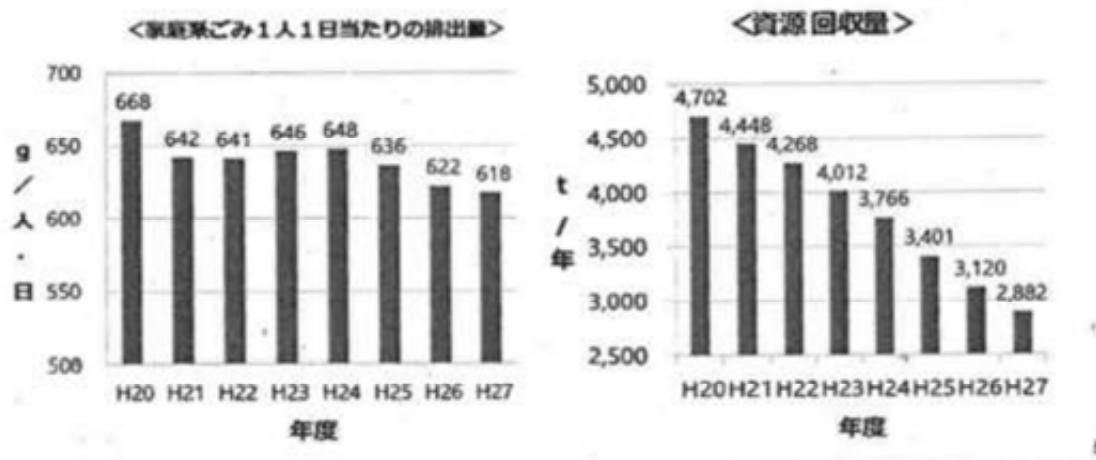
## 【調査事項】家庭系収集ごみ有料化の導入について

### 1. 家庭ごみ有料化に至る経緯と概要について

#### ○有料化導入の背景

##### ①ごみの減量と資源化の推進

家庭系ごみの排出量は横ばいであり、資源回収量は年々減少。  
家庭系ごみには再生可能な紙類、ペットボトル等が多く混入されていた。  
ごみの約8割を占める家庭系ごみの対策が不可欠。



##### ②ごみ処理の費用負担の公平性の確保

ごみの減量に積極的に取り組むほど負担が小さくなる仕組みが必要。

##### ③増大するごみ処理費用への対応

厳しい財政状況のため、ごみ減量による費用削減と新たな財源の確保。  
新しいごみ処理施設の建設のため、多額の費用が必要。



これらの課題を解決するためにごみの「有料化」を検討

#### ○有料化に向けた経緯

年度	取組の内容
H24	知多市ごみ処理基本計画改定 ※家庭系収集ごみ有料化の検討を位置付け
H25	内部検討

H26	家庭系集ごみ有料化に向けた検討会議開催 有料化基本計画（案）パブリックコメント実施 知多市家庭系収集ごみ有料化基本計画策定（全員協議会報告）
H27	家庭系集ごみ有料化に向けた地域意見交換会開催 知多市家庭系収集ごみ有料化実施計画策定（全員協議会報告）
H28	市民周知 条例改正（9月） 地区説明会（10月～12月に市内各地域で実施）
H29	実施（4月1日実施）

## ○制度概要

区分		内容	備考
有料化の対象		ごみ収集場所に排出する 可燃物と不燃物	指定ごみ袋は可燃物、不燃物兼用
指定 ごみ 袋	容量	45ℓ／30ℓ／20ℓ／10ℓ	※10ℓは令和6年9月から販売
	色	黄色	カラス対策を考慮
	厚さ	0.035 mm	旧指定ごみ袋（0.03 mmより少し厚め）
	取扱店 （販売店）	126 店	令和7年8月現在
手 数 料	賦課方式	排出量単純比例型	税込み 1～1.1 円／ℓ
	徴収方法	指定ごみ袋制	袋ごとの手数料は下表のとおり
	免除	紙おむつによる排出	

ごみ袋の容量	45ℓ	30ℓ	20ℓ	10ℓ
袋1枚当たりの 手数料	50 円	30 円	20 円	10 円
手数料額 (10 枚入り／袋)	500 円	300 円	200 円	100 円

## ○手数料設定の背景

知多市では、有料化の手数料設定に際し、以下の4点を考慮。

### ①ごみ処理費用の負担割合

【家庭系収集ごみ1ℓ当たりの処理費用】（H24～26年度の平均値から）

処理費費用	ごみ収集量	1 kg 当たりの ごみ処理費用	1ℓ 当たりの ごみ処理費用
1,150,906 千円	17,934 t	約 64.2 円	約 6.42 円（税込み） 約 6.06 円（税抜き）

10当たり 1 円（税抜き）に設定した場合の負担割合

→  $1 \text{ 円} \div 6.06 \text{ 円} \approx 16.5\%$

※手数料はごみ処理費用の 15%～30%に設定する自治体が多い。

## ②導入自治体の手数料設定

1 円／ℓ～2 円／ℓに設定する自治体が多い

## ③料金水準による減量効果

1.5 円／ℓ程度の水準で 20%程度の減量効果の見込み。

※手数料の金額が高いと減量効果は大きい。

※負担と減量効果を考慮した手数料の設定が必要。

## ④1 世帯 1 か月当たりの手数料負担額

有料化前と後の負担増額を考慮。

※現在のごみ袋の価格を 10 円／枚、使用枚数を以下のとおりと想定し試算

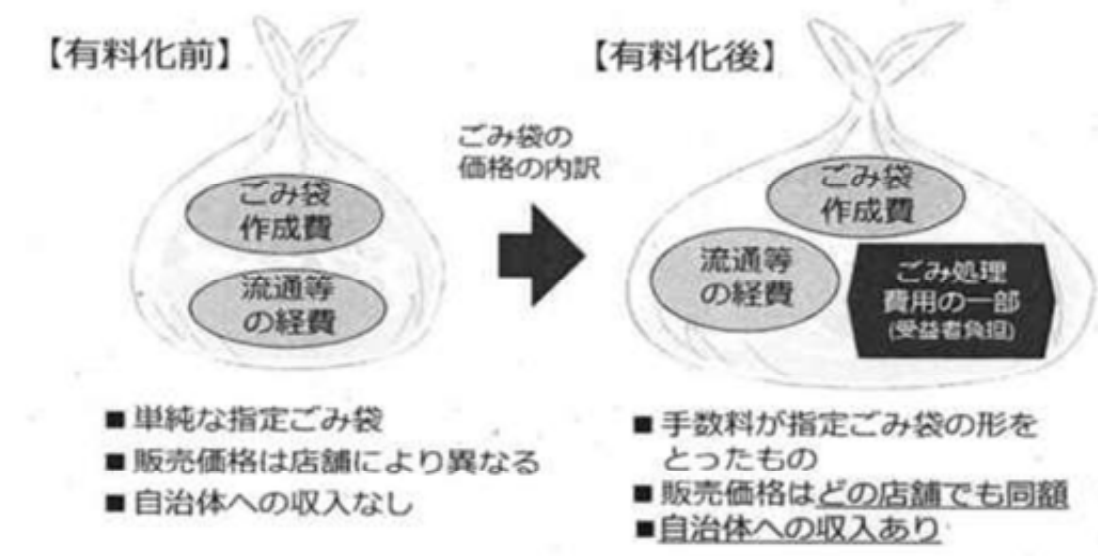
有料化前（可燃物：45ℓ）8 枚／月（不燃物：20ℓ）2 枚／月

有料化後（可燃物：45ℓ）8 枚／月（不燃物：20ℓ）2 枚／月

料金水準	①現在のごみ袋の 購入費／月	②有料化実施後の 手数料負担額／月	負担増額／月 ②－①
1.5 円／ℓ	100 円	600 円	500 円
1.2 円／ℓ	100 円	480 円	380 円
1～1.1 円／ℓ	100 円	400 円	300 円

## ○指定ごみ袋について

・有料化導入前後の指定ごみ袋



## 2. 住民周知の手法と要望、意見について

### ○住民周知の手法について

- ・地区説明会の実施（基本的に行政区単位で実施）
- ・広報、ホームページへの掲載
- ・地区回覧、出前講座などの実施
- ・イベントでの広報（リユース展、フリーマーケット）
- ・メディアの活用（ケーブルテレビのビデオ広報、テレビ局や新聞社の取材）
- ・冊子「ごみと資源の出し方」とパンフレット（Q&A）の全戸配布 など

### ○住民からの要望、意見について

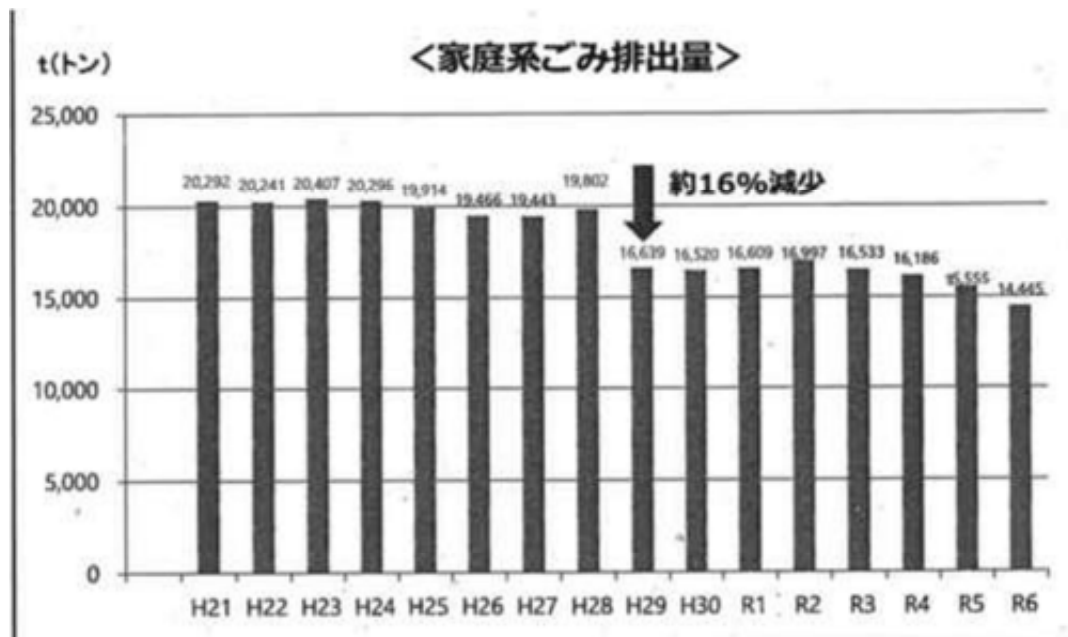
平成 28 年 10 月から 12 月の間に有料化に向けた地区説明会を実施。

各説明会でいただいた質疑や要望、意見についてはホームページや冊子などに掲載している。

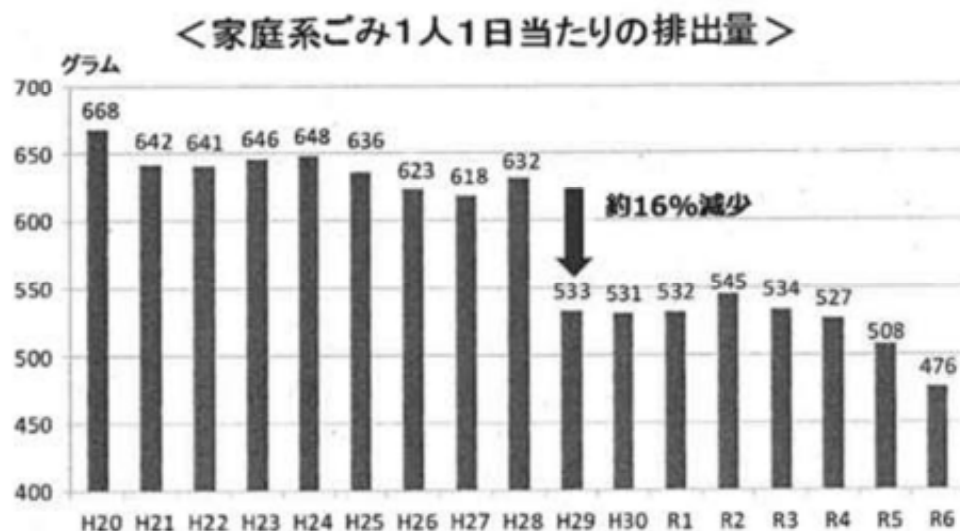
### 【主な意見、要望について】

- ・知多市は緑園都市として緑化を進めてきたはず。庭木や生垣がある家庭から発生する枝木について配慮してほしい。
- ・プラスチック類の回収を拡大してほしい。
- ・指定ごみ袋の厚さは 0.04 mm 以上にしてほしい。
- ・指定ごみ袋の無料配布をしてほしい。 など

## 3. 導入後の効果と検証について







有料化を導入した平成 29 年は前年度比 16%減少。その後も人口減少やプラスチック類等の資源回収品目の増加により、ごみの排出量は減少傾向にある。

#### 4. 今後の課題について

##### ○手数料の設定

- ・物価高騰による製造費などの増加への対応。
- ・近隣市町が手数料を改正する場合の対応。

##### ○ごみ袋の流通ルート

- ・現状ごみ袋は海外製。海外で製造し、市内で流通するのに半年ほどかかる場合もある。今後の国際情勢を考慮して国内の流通ルートを確保も必要。

##### ○ごみ減量と資源化の更なる推進

令和 6 年度の実績において、家庭系ごみの排出量の計画目標値は既に達成。事業系ごみを含め、更なるごみ減量のため、生ごみの減量対策や食品ロス削減に重点を置く。

項目	基準値	目標		実績
	令和 3 年度	令和 9 年度	令和 14 年度	令和 6 年度
家庭系ごみ排出量 (g/人・日)	534 g/人・日	480 g/人・日 以下	460 g/人・日 以下	476 g/人・日
事業系ごみ排出量 (t/日)	10.66 t/日	9 t/日	9 t/日 以下	11.78 t/日

##### ○生ごみの減量対策

- ・令和 6 年 6 月から、生ごみ発酵堆肥化促進剤「アスパ」の無料配布。
- ・令和 6 年 6 月から 12 月に「キエーロ (※1)」のモニター事業を開始  
 ※1 土の中の微生物の力を使い。土中に埋めた生ごみを分解、消滅させる非電動式の生ごみ処理器。

## 【視察後記】

松阪市の地域公共交通は、鉄道・路線バス・コミュニティ交通など、多様な手段を組み合わせ住民の移動を支えており、無料デーや路線見直し、デマンド交通の導入など、利用促進のための工夫も大変参考になった。また、協賛金制度で地域や企業と連携しながら運営している点も印象的で、当市にも取り入れやすい手法であると感じた。

人口減少や自家用車依存といった課題はあるが、ライドシェアやコミュニティ交通の拡充により、持続可能な公共交通の維持を目指す松阪市の取り組みは、当市にとっても大いに参考になった。今後の公共交通施策に生かしていきたい。

次に、知多市の家庭系収集ごみ有料化制度について視察を行った。家庭系ごみ有料化の背景には「ごみを減らし、資源を大切にしたい」という確かな目的があることを改めて感じた。住民説明会や各種広報を重ねながら丁寧に進められた経緯には、多くの声に向き合いながら制度を形にしていく行政の姿勢が表れていた。

導入後に16%もの減量が実現したことは大きな成果であり、物価高騰による手数料の見直しや、ごみ袋供給の安定化、生ごみ・食品ロス削減など、すでに次の課題も見えてきており、指定ごみ袋を有料化する当市にも非常に参考となる内容であった。

引き続き全国各地の先進事例を参考にしながら、市議会と執行部で切磋琢磨しながらより良い古河市を目指していきたい。

【松阪市での研修風景】



【知多市での研修風景】

